

2014 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	医療薬学科	科 目
-----------	-------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

アンケート結果について

実施対象教員 46 名中 45 名が実施し、教員実施率は 97.8%であった。また、実施対象 73 クラス中実施クラスは 72 クラスであり、クラス実施率は 98.6%であった。全学の平均クラス実施率が 97.8%であり、本学科の教員も授業アンケートの意義を理解して実施していると考えられる。

回答率は全学平均が 83.8%であるのに対し、医療薬学科科目では 73.6%と約 10%低い値となった。これまでも医療薬学科科目は学生の授業アンケートに対する理解や意欲が低く、20%近く全学平均より低い値であったことを踏まえると大幅に改善されたと言える。

設問別集計結果では、Q4（授業外学習時間）及び Q9（授業のレベル）は全学平均より上回ったが、他の設問では低い結果となった。これらの結果の要因の一つとして毎回述べているが、薬学教育の特殊性に基づくと考えられる。即ち、薬学教育には全国共通の薬学教育モデル・コアカリキュラムと国家試験出題基準があるため、講義はこれに合わせざるを得ない。学生は興味の有無に関わらず開講されているほとんど全ての科目を履修しなければならない、一定割合の学生は講義についていけない現状に基づくと考えられる。この結果は、「分析力」と「思考力」のみが突出して高く、他の項目は全学平均より低いという DWCLA10 選択率にも反映されていると言える。

アンケート回収率が低く、設問別集計結果の多くの項目で科目平均値が全学平均値より低くなった他の要因として、医療薬学科では学習環境が全学科の中で最も悪い点が挙げられる。1 クラスあたりの学生数及び教員 1 人当たりの学生数が、キリスト教・同志社関係科目を除いて最も多く、2 倍以上の数となっている。医療薬学科区分における講義科目では、大教室で 150 人以上が受講する科目も多く、教員がきめ細かい指導を行うことが困難な現状である。実際、履修生が講義科目の半分である実習科目や 6 年次生を対象とした特論科目などについては全学平均より良好な結果が得られている。

また、科目の項目により平均値よりかなり低い評価が一部認められる為、今後の改善を要する。

今後の改善について

授業アンケートの回答率が改善されたとはいえ、まだまだ全学平均よりはかなり低い現状である。授業アンケートが、授業の改善、ひいては学生の学習効率の改善につながることを引き続き説明し、授業アンケートに対する理解を促進する。

また、医療薬学科区分のクラス人数を増やし、クラスあたりの学生数を多学科レベルにまで下げ、学生一人一人にきめ細かい対応ができる環境の整備に努めたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育・研究推進センター